

互いに結びついたエコシステム

裏磐梯の生物が多様性に富み、自然環境が活力に満ちているのは、生息する動植物が相互に依存しているおかげです。例えば、ナナカマド（学名：*Sorbus commixta*）の実は多くの鳥類の食べ物になります。そのお返しに鳥はフンの中の種を芽吹かせるという形で低木の繁殖を助けます。研究によると、種は周りを覆う果実部分が消化によって分解されなければ発芽できないことがわかっています。

アリやハチはソバの花にとって効果的な花粉媒介者であり、ソバの実増産の重要な役割を担っています。地元コミュニティではソバの実を収穫し、おソバやソバ茶などの商品を作っています。

ツキノワグマ（学名：*Ursus thibetanus japonicus*）は下剤や嘔吐剤の役目をするミズバショウ（学名：*Lysichiton camtschatcensis*）を食べます。この植物に含まれるシュウ酸カルシウムは、特にツキノワグマが冬眠から覚める際の重要なプロセスである体内からの老廃物の排出を助けます。どんなに小さな動物や植物も、裏磐梯の生態系のバランスを保つための重要な役割を果たしているのです。